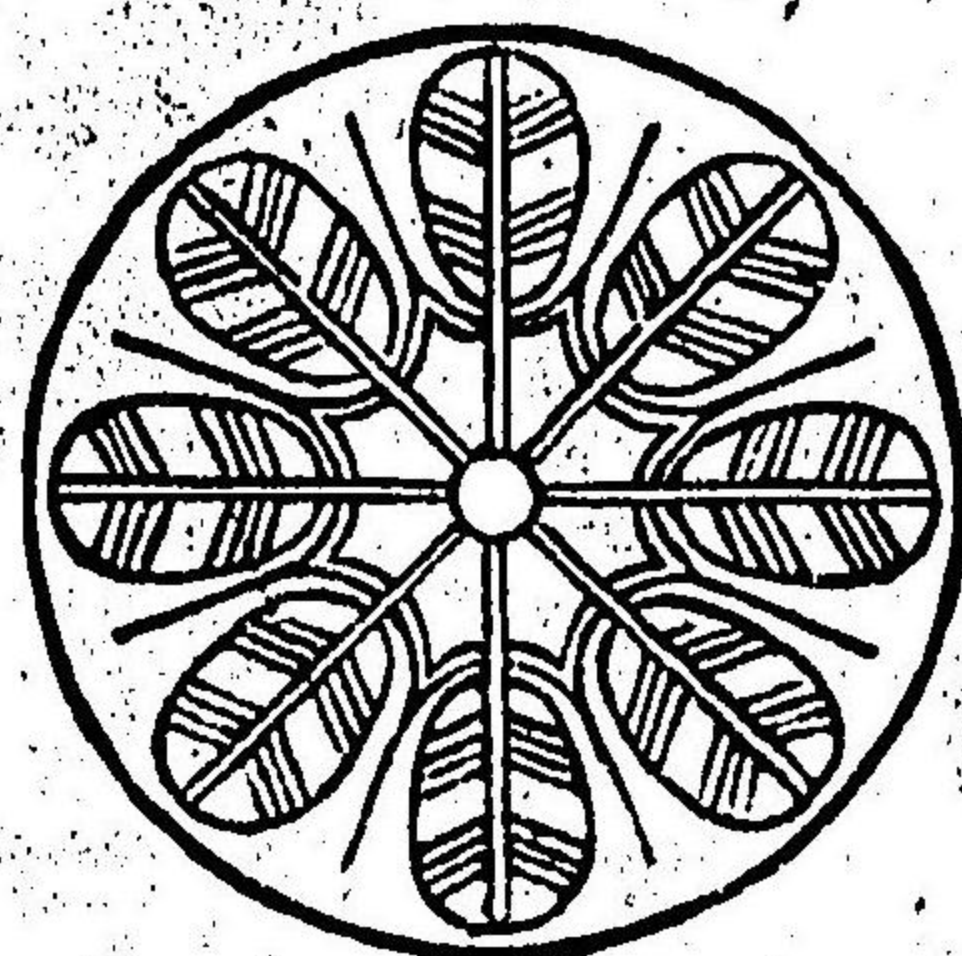
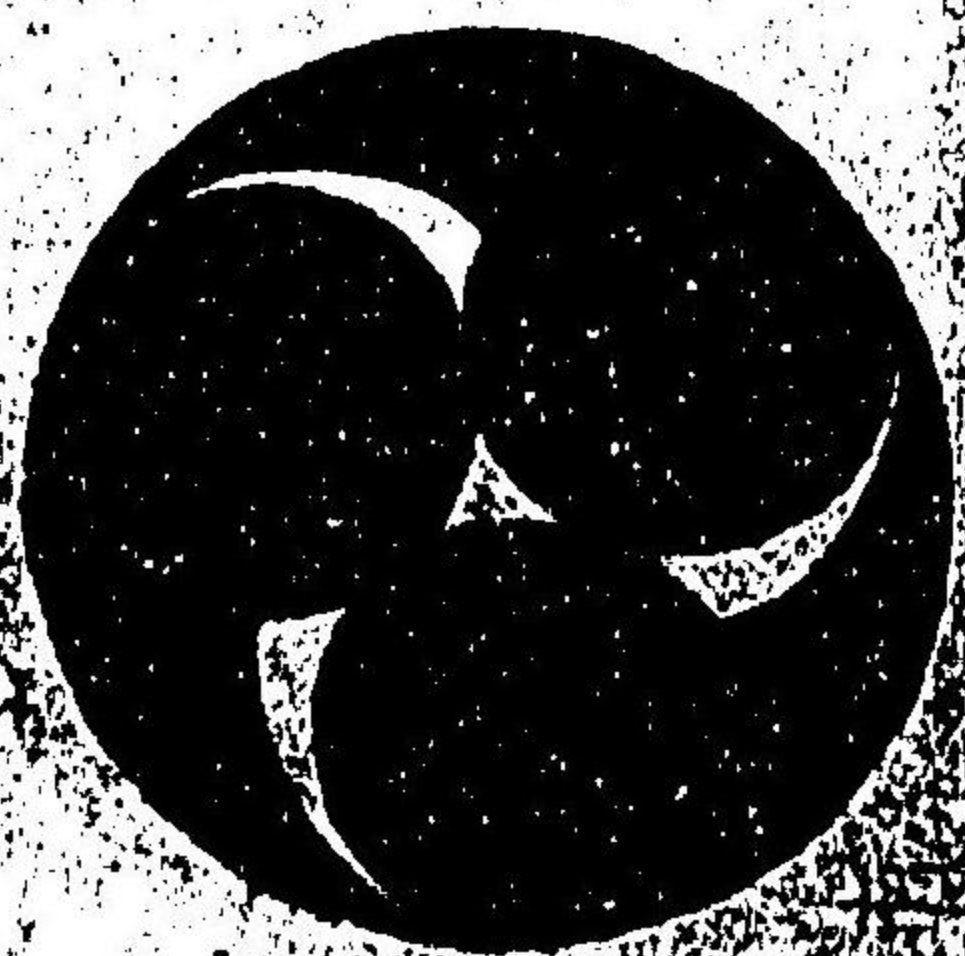
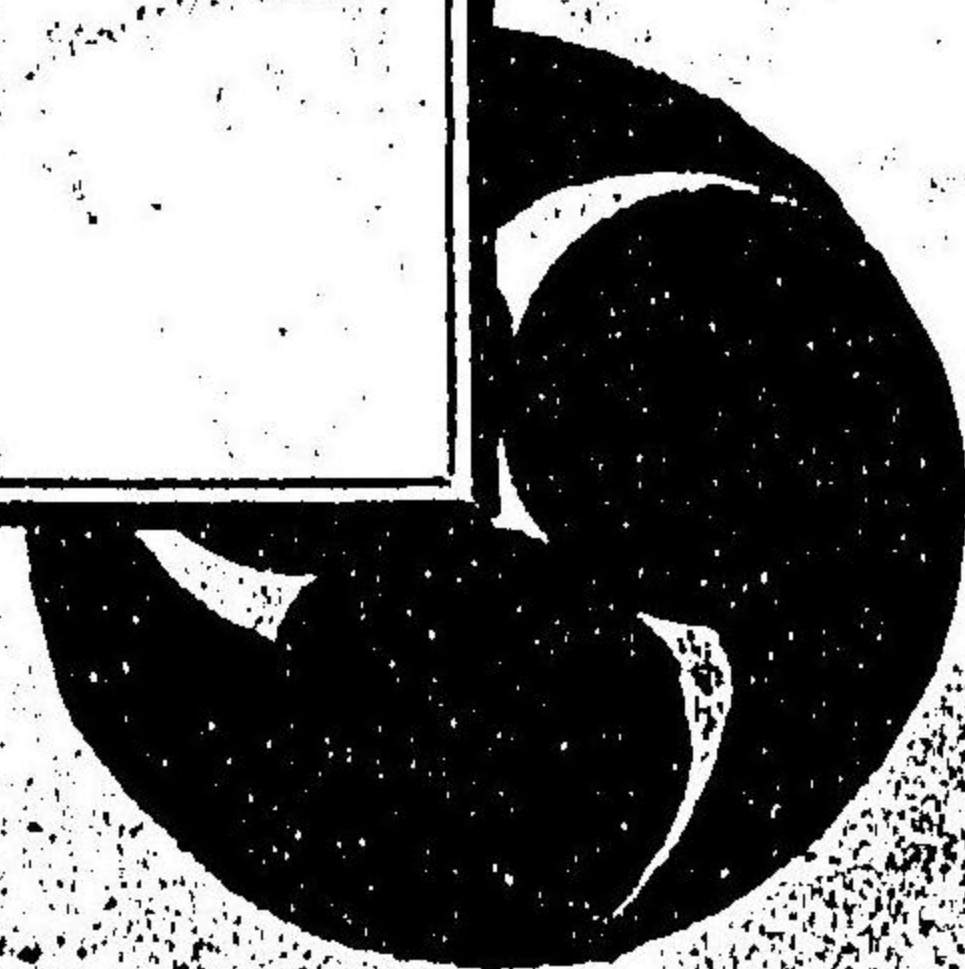


7
1
2



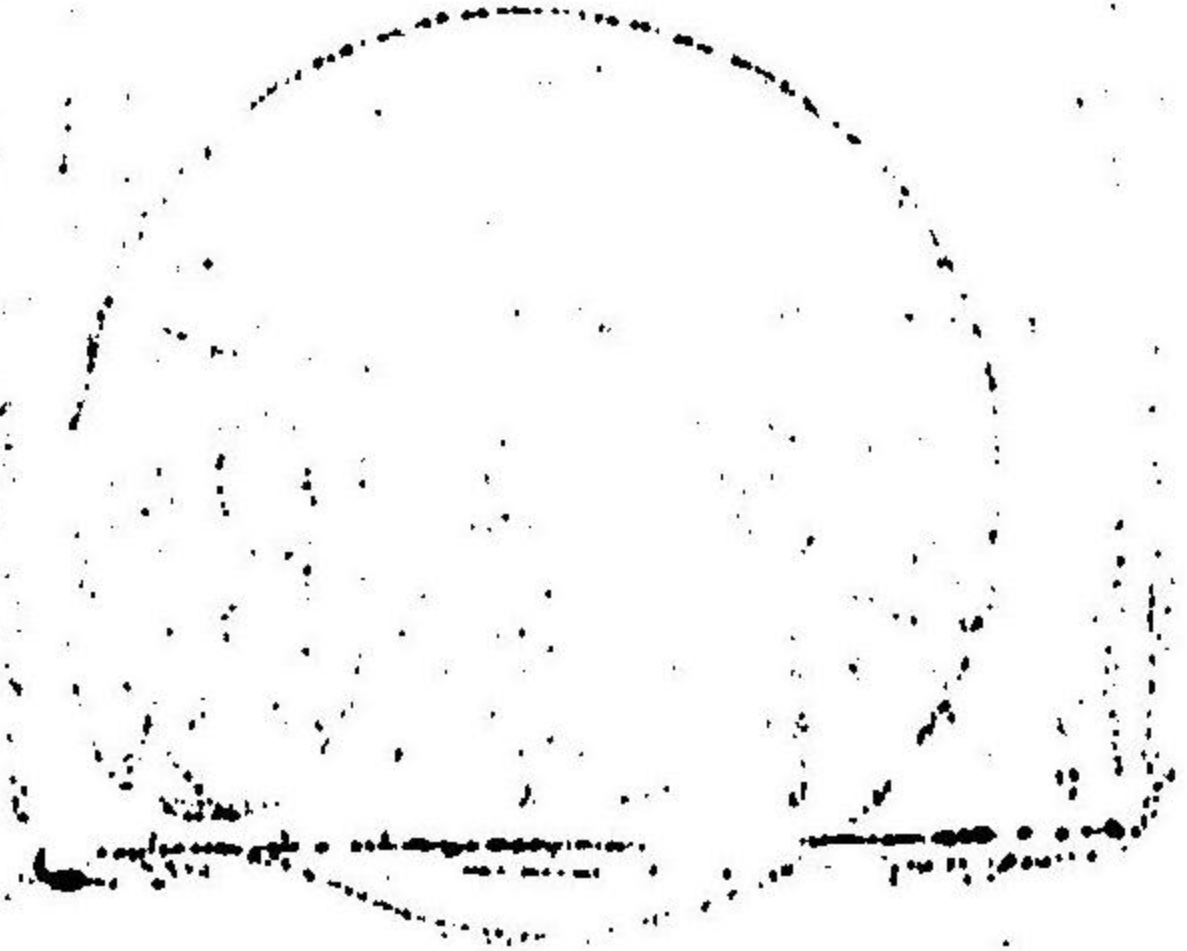
教祖五十年祭誌



本



本



五

始

櫻教顧問
貴族院議員

正四位子爵小笠原壽長書



教祖五十年祭誌目次

祭典の成立

一 祭典の由來

二 發起人會

三 主意及規程

四 發起人姓名

職員

一 總理、委員

二 專務祭典係、祭典係

三 臨時祭典係、委員

四 歌章及參拜章

有志奉納

一 神饌物

二 有志、分支院教會

祭場裝飾

一 設計

二 祭典屆

三 祭場設計

四 祭場變更

特50
724

二十三

三

- 五 赤飯差出所
- 六 辨當差出所
- 七 車馬置場

儀式……………二十六

- 一 祭式次第
- 二 祭官
- 三 招待狀及賓客
- 四 祝詞祝辭
- 五 祝歌
- 六 告奏

酒饌……………三十六

- 一 類別
- 二 辨當券及酒盃

警備……………三十八

- 一 警官の注意
- 二 取締人夫

奏樂 餘興……………三十九

- 一 古備舞
- 二 神樂

三 餘興

祖靈祭……………四十三

- 一 靈社祭
- 二 鎌安翁十年祭

墓參……………四十六

- 一 梅田墓參
- 二 慰勞會

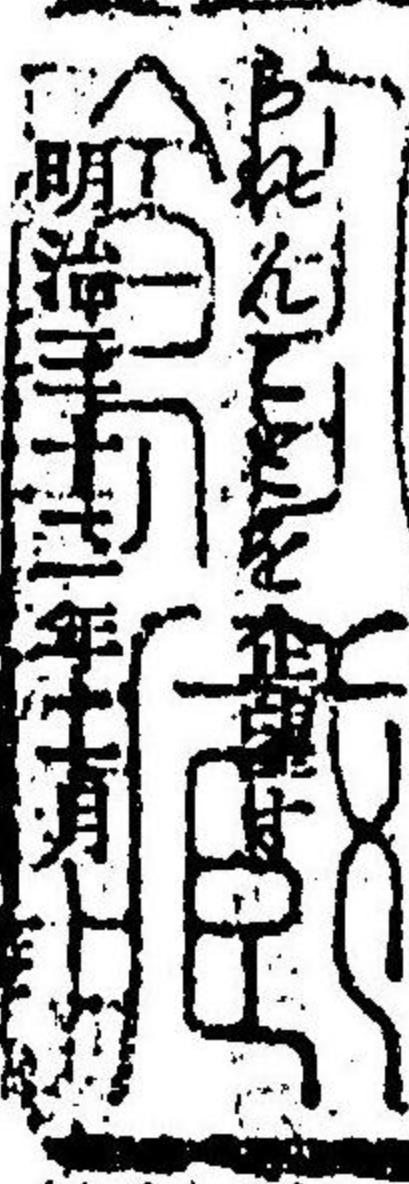
五十年祭決算報告……………四十七

教祖五十年祭誌

○祭典の成立

一 祭典の由来

吾教祖井上正鐵翁三宅嶋の配所にて歸幽し給ひし嘉永二年より今年明治三十二年に至り實に五十年の春秋を過ぬ此間余が父祖を始め高弟の諸氏師の遺業を紹き東奔西走し或る其所に勸誘せられたりしことあるも屈撓せき益精神を勵し多年倦怠なく奉仕し然して神社を造建し又教祖廟立の許可をも得て彌隆盛に趣くの運に至り今茲に五十年式年祭を舉行すとは本教に從事する安治等一世の光榮なれば身心を盡して報恩の誠を致さんとす依て職員懇議の上祭典の方法を定れば各其意を得て翼贊の實を擧



明教管長 坂田安治

明教々師役員信徒中

二 發起人會

明治三十二年一月三十日午後三時を以て禊教本院に於て發起人會を開き管長坂田安治より意見書を出し協議の上主意書及規程を議定し分支院教會に布達し祭典は管長總理し三課長及課長代理を委員と定む

三 井上正鐵翁五十年祭主意及規程

一 祭典費豫算金八百圓
内 譯金貳百圓 瑞垣及境内周圍修繕費金百圓 神具及幔提
灯等新調費金百圓 神樂費金百圓 幄會椅子新調費金貳百圓
圓神酒赤飯費金百圓 雜費

一 禊教々導職教補助及役員一名ニ付金五錢以上奉納

但分支院教會教務所ニ於テ部内ノ奉納ヲ集纏シ三月三十日迄ニ本院ヘ送付ス

ハキリ

一 禊教信徒男女共一名ニ付金三錢以上奉納

但前同斷

一 神饌物

分支院教會教務所各其地ノ生産物ヲ供フ

一 當日混雜ヲ避クル爲メ參詣人ハ禊教章佩用者ノ外一般へ參詣章ヲ授ク

一 教導職及教章佩用者ハ幄會ニ正列シ順次ニ參拜セシム

一 參詣者ニ赤飯供物ヲ與フ

一 守札望ノ者ニ出ス

一 禊教専務教師ハ本院ニ止宿セシム

一 參詣人止宿ハ多數ニテ行届カザレバ最寄ノ旅宿ニ隨意止宿スル者トス

禊教定宿 上野停車場前 群玉舎 大米屋

一 五十年祭景況ハ後日紀念ノ爲メ一小冊トシテ各所ニ配賦ス

號外

來四月十二日井上神社五十年祭執行候ニ付豫テ昨年中御通知申置候通り賑々敷御參詣有之度依テ別紙主意書ノ趣御承知下サレ各報恩ノ信ヲ立候様企望仕候
一準備ノ都合有之候間參詣人物人員三月三十日迄ニ無相違御通報下サレ度神饌物ハ四月十日到着ノ事ニ御送出相成度候
右御通達ニ及候也

禊教本院

明治三十二年二月

庶務課

分支院教會事務所御中

參照

庶第六〇號

益御堅固御教務之段賀上候陳ハ來明治三十二年四月十二日教祖五十年祭執行ニ

付テハ報恩ノ爲充分ニ準備ヲ調ヘ大祭典ヲ舉行致度然ルニ外交上ノ事モ日ヲ遂テ頻繁ナルニ隨ヒ御團體ヲ維持スル敬神尊皇家ヲ團結シ專ラ吾禊教ノ教旨ヲ宣揚セント欲スル折柄本年議會ニ於テ教章モ發行相成候事故精々有志ヲ募リ國々門中成丈ク上京參詣セラレ教章モ佩用アラントテ企望スルハ勿論其他各分支院教會共或ハ旂幟等ヲ差立團體ヲ成シ參拜スルモ素ヨリ妨無キ事故豫メ分支院教會ノ意見ヲ本院へ御申出相成度當方準備ノ都合モ有之ニ付前以テ此段御照會ニ及置候也

禊教本院

明治三十一年五月二十日

庶務課

分支院教會御中

四 發起人姓名

五

五十年祭を執行せんと特に盡力せし者左の如し

管長 坂田安治

顧問

正四位子爵 小笠原壽長

井上神社々掌

權大教正 加藤直鐵

庶務課長

中教正 乾 久三郎

教務課長

權中教正 柴 眞住

會計課長

少教正 吉田重藏

少教正 齋藤彖吉

權少教正 山川永徳

大講義 眞保精所

權大講義 古口忠助

全 四方傳兵衛

中講義 辻 亦兵衛

○職員

一 總理 委員

一月三十日の發起人會に於に總理委員を定むること左の如し

總理 管長 坂田安治

委員 中教正 乾久三郎 權中教正 柴 眞住 少教正 吉田重藏

大講義眞保精所

二 専務祭典係 祭典係

三月十四日管長より囑託せしもの左の如し

専務祭典係 少教正齋藤彙吉 權少教正山川永徳

權大講義四方傳兵衛 中講義 辻亦兵衛

祭典係 訓導田中安兵衛 權訓導菊地菊次郎 權訓導長江要作

權訓導前島縫之助

號外

來四月十二日教祖五十年式年祭ニ付同日午後一時各分支院教會共祭式ヲ執行シ報本
反始ノ誠意ヲ表スベク此段相違候事

明治三十二年三月十日

禮教管長 坂田 安治

遙拜祝詞

掛卷毛毘支井（このうへのかみのやしら） 上神（かみかみ） 社止稱奉留教祖正鏡大人乃神靈乃御前乎遙爾拜奉里豆畏美毛白左久
今日波汝命乃五十年乃御祭式乃日奈禮（あづまのり） 東京乃本津神（もとつ） 社爾教子等參集比豆御祭仕奉留賀
故爾是乃所爾毛門中乃男女等諸打集比豆御酒御饌種々乎其捧奉里拜奉其久乎平介久安介久聞
食豆是乃腹教乎彌進米爾進米給開彌榮衣爾榮志米給開止畏美畏美毛白須

號外

教祖五十年祭參拜ノ教導職ハ正服用タルベキ事

一分支院長専務教師教務所擔任教師ハ四月十日夕迄ニ參着ノ事

一祭式ハ兩日共午後一時執行ノ事

一 吉備舞 神樂

餘 興

釵 飾 西洋手品 茶番狂言

一豫テ御通知申候參詣人員數届ハ必三十日迄ニ差出ベキ事
右之通相定候間此段御通知申候也

膜教本院

庶務課

明治三十二年三月

分支院教務所御中

三 臨時祭典係 委員

三月十五日本院世話係一同日本橋區小傳馬町北條寅吉方に於て臨時會を開き餘興奉納の事を決し委員を定むること左の如し

委員 坂田兼吉 小泉吉五郎 宮崎三右衛門

四月四日世話係一同本院に集會し投票を以て臨時祭典係を定むること左の如し

臨時祭典係 奉納帳場 擔當

古口忠助 岡本半兵衛 北條寅吉

鈴木惣右衛門 富田榮太郎

同 境内外取締 擔當

加藤爲藏 鈴木万藏 岡野芳藏 村田重太郎

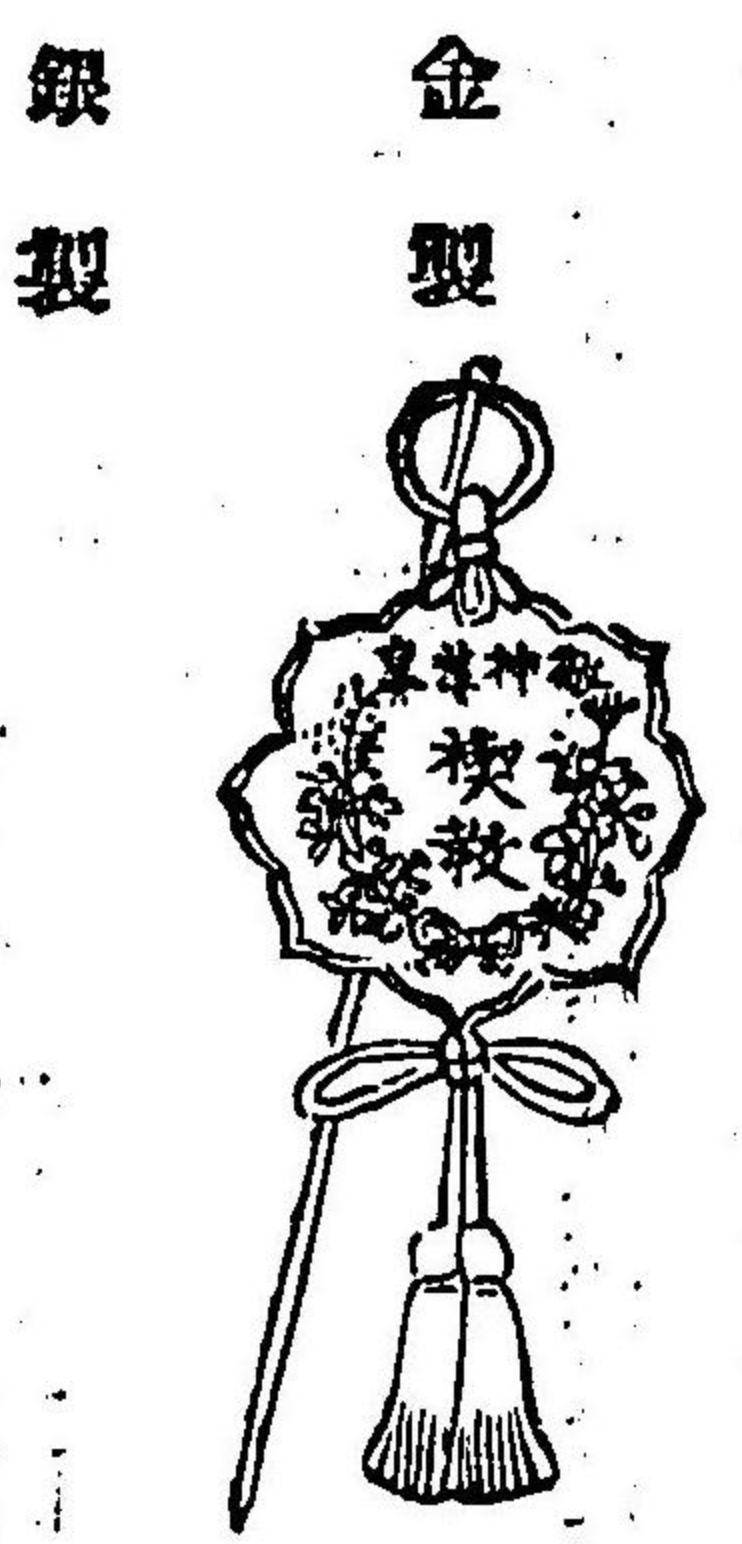
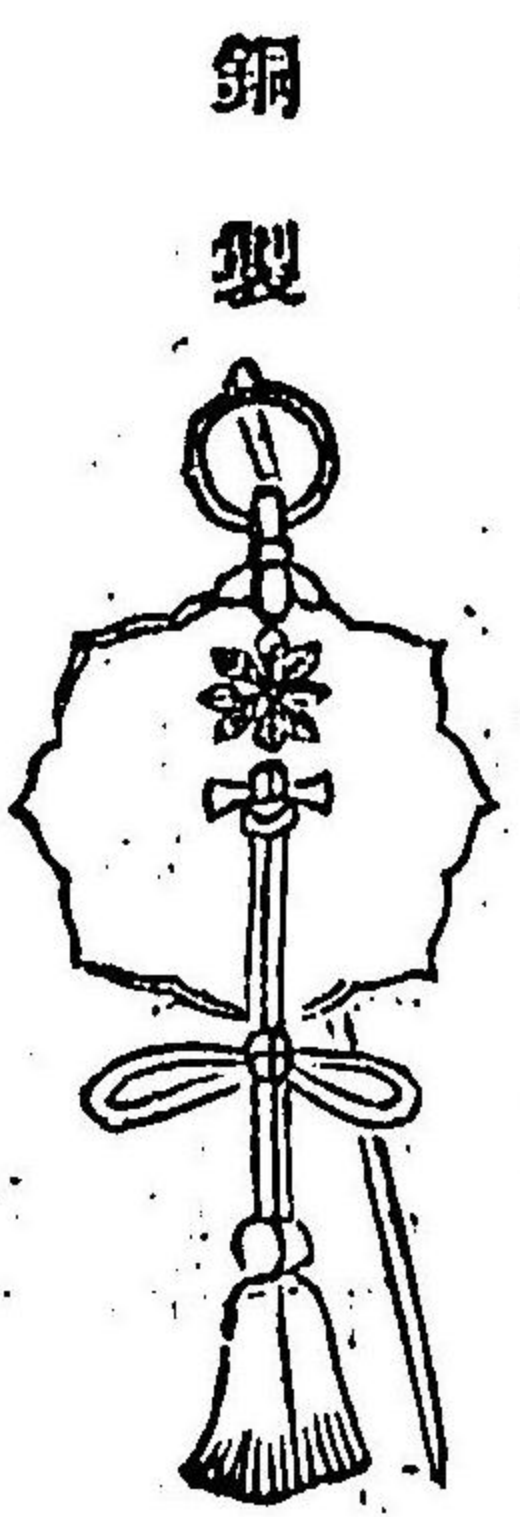
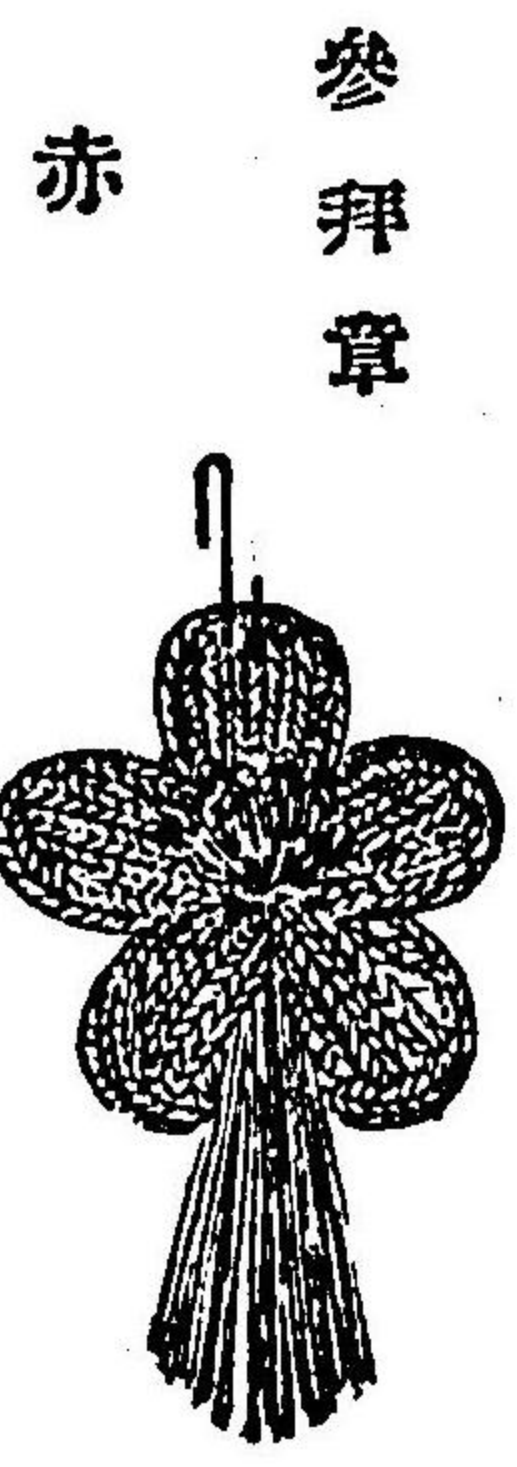
味崎彌助 下村福三郎 大森己之助

同 赤飯辨當湯茶 擔當

世話係一同

四 教章及參拜章

本祭典に付ては主意書の規程に依り教章及役員章を佩用し一般の參詣者に參拜章を交附し以て當日混雜の患なからしめたり其種類左圖の如し



激章

今、敬神のちりまひ

よらういそぎ

安治

謙きとていふまゝのちりまひ

あつちのちりまひ

○有志奉納

五十年祭に付き有志奉納左の如し

一 神饌

大鏡餅一備 紅白牡丹花菓子一盃 子爵小笠原壽長
 目録 子爵本莊壽臣 全 戸田時子 全 松前光子
 全 有馬豊子 全 正五位本居豊顯 全 井上頼因
 全 大成教禊各教院長

産物一盃宛 本教分支院五十ヶ所 番外有志饌物數盃

二 奉納金

金百圓	坂田 安治	金七拾五圓	子爵小笠原壽長
金五拾圓	吉田 重藏	金五拾圓	篠原 新八
金五拾圓	前澤 新吉	金貳拾五圓	乾 久三郎

金貳拾五圓	柴 眞住	金貳拾五圓	坂田 愛子
金貳拾五圓	横山 嘉一郎	金貳拾五圓	高坂 保司
金貳拾圓	山川 永徳	金貳拾圓	小泉 吉五郎
金貳拾圓	村田 重太郎	金拾圓	野口 幸吉
金五圓	戸田 時子	金五圓	愛國 銀行
金五圓	眞中 長四郎	金參圓	山本 六兵衛
金參圓	伊東 市太郎	金參圓	米山 忠七
金參圓	高坂 保司内	金參圓	眞保 精所
金貳圓五拾錢	松前 光子	金貳圓	子爵本莊 壽巨
金貳圓	奥宮 勢以子	金貳圓	福田 又一
金貳圓	辻 八五郎	金貳圓	辻 亦兵衛
金貳圓	愛國銀行牛込支店	金貳圓	小澤 安胤

金貳圓	古口 支店	金貳圓	古口 忠助
金貳圓	北條 寅吉	金貳圓	福田 文藏
金貳圓	櫻井 一新	金貳圓	池村 憲三
金貳圓	齋藤 条吉	金貳圓	高橋 直記
金貳圓	袴田 喜四郎	金貳圓	藤原 孝三郎
金壹圓五拾錢	峰島 松太郎	金壹圓八錢	小松 きわ
金貳圓	塚本市右衛門 全とり	金貳圓	岡野 きん
金貳圓	塚田 八十八 外	金壹圓	有馬 豊子
金壹圓	本居 家	金壹圓	奥宮 健吉
金壹圓	村越 鐵善	金壹圓	田村 喜三郎
金壹圓	村田 黄雲	金壹圓	峰尾 勝春
金壹圓	堀川 長兵衛	金壹圓	大野 繁吉

金壹圓	土山 榮吉	金壹圓	畑中 正順
金壹圓	愛國 銀行	金壹圓	關 秀賢
金壹圓	牛込支店員	金壹圓	相馬 藤助
金壹圓	山本 平藏	金壹圓	百瀬 瀧藏
金壹圓	片岡 幸助	金壹圓	氣賀 小六郎
金壹圓	伊東 昇三	金壹圓	櫻井 憲二
金壹圓	吉川 柳助	金壹圓	荒川 重吉
金壹圓	前田 文貞	金壹圓	山内 信
金壹圓	高橋 義信	金壹圓	原田 傳兵衛
金壹圓	河野 萬吉	金壹圓	伊東 清作
金壹圓	伊藤 信太郎	金壹圓	柏原 勝次郎
金壹圓	庄司 吉兵衛	金壹圓	内田 彦四郎
金壹圓	大島 万吉	金壹圓	

金壹圓	青木 新吉	金壹圓	武田 平藏
金壹圓	生川 吉太郎	金壹圓	伊藤 孝三郎
金壹圓	鈴木 繁次	金壹圓	中村 春吉
金壹圓	關口 豊太郎	金壹圓	木津 千吉
金壹圓	三好 市太郎	金壹圓	中田 三吉
金壹圓	辻 庄太郎	金壹圓	戸井 源藏
金壹圓	黒子 多喜藏	金壹圓	小尾 半兵衛
金壹圓	天野 傳四郎	金壹圓	杉村 敬道
金壹圓	深田 安榮	金壹圓	平川 彌平次
金壹圓	高瀬 倉吉	金壹圓	沖 鐵藏
金壹圓	月岡 やう	金壹圓	植村 いせ
金壹圓	大塚 九ま	金壹圓	寺山 よし

金壹圓	岡野さく	金壹圓	田中安兵衛
金壹圓	長江要作	金壹圓	前島縫之助
金百圓	本院直轄東京門中	金六拾五圓	栃木分院
金五拾六圓八拾錢	國谷分院	金五拾圓	千村正實門中
金四拾七圓八拾六錢	伊勢分院	金四拾四圓八拾錢	淺草分院
金參拾五圓	甲斐分院	金參拾圓參拾八錢	亘摩分院
金參拾圓參拾錢	遠江分院	金參拾圓	宇都宮分院
金貳拾五圓	足利分院	金貳拾四圓	美濃分院
金貳拾參圓參拾六錢	小南分院	金貳拾圓九拾參錢	深川分院
金拾八圓九拾貳錢	喜多方分院	金拾七圓貳拾四錢	足立分院
金拾六圓六拾五錢	山城分院	金拾五圓四拾七錢	下條支院
金拾五圓	岩槻分院	金拾五圓	周集支院

金拾五圓	大路支院	金拾參圓八拾九錢	會津分院
金拾壹圓七拾錢	港支院	金拾圓	藤枝分院
金拾圓	久留里支院	金九圓五拾七錢	津保支院
金八圓拾六錢	深津分院	金八圓	大寶分院
金八圓	猿嶋分院	金七圓七拾貳錢	雄國支院
金七圓四拾壹錢	美濃東支院	金六圓六拾錢	粕壁支院
金六圓拾錢	磐梯支院	金六圓	津支院
金六圓	大成教 禊第三第四第六 第八第九第十二 院	金五圓八拾錢	尼尾支院
金五圓六拾六錢	引佐支院	金五圓四拾錢	森町門中
金五圓	根古谷支院	金四圓五拾錢	横濱支院
金參圓五拾壹錢	金谷分院	金參圓參錢	日ノ澤村門中

金參圓	高崎支院	金參圓	村越鐵善門中
金參圓	金田門中	金貳圓七拾錢	藤岡支院
金貳圓參拾五錢	開運教會	金貳圓	上三川支院
金貳圓	津金支院	金貳圓	神皇教會
金壹圓五拾錢	永井野分院		
金百四圓五拾五錢	當日 初穗	金拾七圓八拾錢	祖靈祭初穗
傘百本	本院直轄有志門中	正宗小燗酒三百本	全上
大釜二個	宮崎三右衛門	蠟燭千三十挺	栖原市太郎
水引幕一張	齋藤重次郎	靈社瑞垣門扉	下村福三郎
慶表八十枚	氣賀鷹四郎	砂糖小樽二個	遠江分院門中
美濃紙百貼	美濃分院	日本書記 延喜式 等廿九冊	跡部清平

○祭場及裝飾

一 設計

此祭典は敬祖神靈の鎮座なし給ふ井上神社の社頭よ於て執行すること素より當然の道なれば専ら其設計をなし其筋に届出をなせり

二 祭典届

祭典届

下谷區西町二番地

井上神社

右四月十二日十三日例祭日ニ有之候處本年ハ祭神井上正鐵翁五十年相當ニ付境内ニ於テ神樂及餘興ニ舞舞西洋手品茶番狂言等相催神靈ヲ慰度又西町二番地二番地ハ係候道路左右ハ提提灯相掲候尤通行人ノ妨不相成様取締相立可申候依此段御届申上候也

右井上神社々掌

明治三十二年四月二日

加藤直敏

下谷警察署御中

三 祭場設計

祭場の設計摘要左の如し

- 一 神樂所境内東北の隅に假舞臺を設く
- 一 瑞垣門鳥居表裏門等の左右へ高張提灯を立つ
- 一 拜殿廻りに幔を引き殿内椅子を置き華族及本教教正の控所を設く
- 一 境内東南の隅にテントを張り神饌調理所に備ふ
- 一 境内にテント六ヶ所を張り大成教禊各教院長愛國銀行重役一般教導職員教章佩用者参拜人扣所に備ふ

- 一 禊教本院神前に紫縮緬の幔を張り奥上段の間を以て華族貴顯の休憩所とし次の間を大成教々師席及奏樂所を備へ擔提灯を掲げ縁廻りに幔を張り廣間及禊所を以て参詣人扣所とす
- 一 本院門内に舞臺を設け餘興を演ずる所とす
- 一 國旗章の柱に數百の球燈を纏附す
- 一 西町一二番地往來左右へ櫻折枝付擔提灯を掲げ南北橋際に額提灯を立つ

四 祭場變更

祭場の井上神社々頭の設なりし所朝來雨天ゆえ止を得ず禊教本院主神の祠前に於て執行することとし大真榊木を左右に差立て教院を以て祭場と定む

五 赤飯差出所

木院勝手の間を以て赤飯差出所とす

六 辨當差出所

本院玄關脇小家を以て辨當差出所とす

七 車馬置場

井上神社境外明き地を以て馬車置場とす

○儀式

明治三十二年四月十二日敎祖五十年祭當日なるを以て管長始敎師信徒一般靜肅謹慎時刻を待て祭典執行に従事す則祭式は左の如し

一 祭式次第

午后零時三十分祭官着服一時祭場ニ着座一楫

先盥湯行事

次大麻ヲ据ウ

次祝詞ヲ宣

次大麻行事

次大麻ヲ引

次開扉

此間奏樂

次神饌ヲ供

此間奏樂

次祝詞

次祝辭

次拜禮

井上正鐵翁二女 乃理子 小笠原子爵 本莊子爵
加藤直鐵妻

大教正小笠原晴子 小笠原愛子 松前光子 戸田時子

大成教々正及教師 本教々正教師 教章佩用者 役員世話係

信徒一同 祭官 退手 退出

吉備舞

説教

二 祭官

齋主 管長坂田安治 典禮 權大教正加藤直鐵 全贊者權大教正

野口安慶 全 少教正吉田重鐵 祓主 中教正乾久三郎

大麻行事 全人 神饌傳供 少教正高橋直記 全齋藤榮吉

全 戸井源藏 權少教正山川永徳 中講義島村常吉

塩湯行事 大講義日下部伴六 後取 中講義榎勘十郎

裝束方 大講義武井周藏 權訓導長江要作

三 招待狀及賓客

拜啓益御清福之段奉欣賀候陳者來十二日教祖井上正鐵翁五十年祭執行仕

候ニ付同日晴雨トモ午前十時ヨリ御參詣下サレ度此段御案内申候也

但準備之都合モ有之候間御隨伴ノ人員本月五日迄ニ御通報下サレ度候

明治三十二年四月一日

下谷西町

井上神社々號 權大教正 加藤直鐵

禊教管長 坂田安治

賓客

子爵小笠原壽長 同 夫人 大教正小笠原晴子 子爵本莊壽臣

井上頼國 戶田時子 松前光子

大教正村越鐵善 權大教正杉山大二 全 杉村敬道 中教正小山鶴

中教正田嶋安兵衛 權中教正松井信一郎 全 高野彦兵衛

權中教正横尾喜右衛門 權少教正丸山守貞

愛國銀行重役 福田又一 峰尾勝春 大野繁吉

四 祝詞 祝辭

教祖五十年祭祝詞

掛卷毛長伎禊祓乃神業乎創給比之神伊邪那岐大神乃珍御子止大座々須天照大御神神須佐之男大神二柱乃命乃宇氣比給布止八濫乃河邊爾堀作其志々天乃真名井乃井上神社止禰言竟奉留我教乃祖正鐵大人乃神靈乃前爾齋主任奉留禊教管長坂田安治恐美拜美毛白左久大人也

此教乃業乎始米給比立給布止既久大伎志乎立國國乎行廻里身毛多郡知受愛伎目乎毛耐忍比年頃乃勞乎重爾豆遂爾一乃教乃道乎開伎給比之毛一度波世爾遇受豆沖乃小島乃島守止流離座豆嘉永二年至云年爾其現御身波身失給爾留毛廣伎御功高伎御名波消受失受明治乃新代乃御代乃光爾久方乃雲霧晴豆教乃子止在留我輩毛青雲乃綠乃空乎渡留日乃光隈無久高々爾仰伎奉里豆入紐乃同心爾人々乎教閉導久隨々去之一十七年止云年是乃禊教乃獨立倍伎御許可乎毛蒙里介禮婆彌々益々仰伎尊見悅比慕比依集布人等國々所々爾甚多久成行久毛即豆大人乃大伎勳功乃曠爾那毛有留然志豆其身失給比之時與里出豆入留春秋乎搔算布禮婆早久毛五十年乎過奴故例乃任爾御祭式仕奉其奉止爲豆今日乃生日乃足日爾禮代乃幣帛御酒御饌海川山野物等乎横山成置足波之笛吹伎琴引伎歌比舞比奏傳遊比豆人々諸樂美拜美奉留事乃狀乎平介久安介久開食豆今毛行前毛是乃教乎彌弘爾彌高爾朝日直刺須山乃樓乃真盛爾野乃曾伎出乃曾伎脫受行到其志米布滿志米給比又是教爾入來列奈留人々波靈幸布神乃御教爾背久事無久人止在留道乃誠爾違事無久直久正久清久明久勤米行波志米進美伊曾志麻志米給閉止且仰伎且乞祈豆齋乃

吉言乃稱言竟奉其久止白須

言別且相殿爾座奉禮留安西男也乃自神靈三浦隼人主乃神靈乃前爾白左久今日乃此日波教祖乃大人命乃五十年乃祭祀仕奉留爾依豆種々乃御饌物乎捧奉里拜奉留狀乎平介久聞食豆常毛撫給比愛給閉留恩願乃任爾是乃禊教乃教子等乎夜乃守日乃守爾守幸閉惠佐介給閉止畏矣長
榮毛白須

祝辭

本日當禊教々祖井上靈神ノ五十年祭ヲ舉行スルニ臨ミテ一言ヲ陳ントス抑教祖井上翁ガ在世ノ大苦心ハ今之ヲ贊セスト唯モ百折不撓遂ニ一教ノ基ヲ開キタル精神ハ現ニ數萬教徒ヲシテ此式年ノ盛典ヲ行ハシムルニ至ル教祖ノ神靈地下ノ喜悅察スルニ餘有リ但レ教徒諸氏今ヨリ後モ教祖ノ苦心ト其精神トヲ忘レズ今ノ盛況ニ安セス驕ラス益々誠意警誠ヲ加ヘテ百年ノ式年祭ニハ今日ニ倍スル盛典ノ舉行ヲ期センヲ欲ス聊忠告ノ意ヲ表シテ祝辭ニ代フ

明治三十二年四月十二日

禊教顧問正四位子爵 小笠原壽長

五 說教

管長の口演あり其筆記は左の如し

本日は教祖井上の神の五十年式年祭も賑々しく執行に成り神靈の御歡もさこそと思ひやられ奉仕致す安治等も誠々欣悅の至に存じ升 就てハ教祖の遺訓に依りまして緩々說教も致し度存じ升なれ共今日はかく參詣の方々も充滿致し居り又奉納の神樂舞餘興の催しも在りまして此盛會の中なれば說教は畧しまして只一言の口演を申述ますに依てまばらく諸君の情聽を煩します さて教祖の三宅島にて逝去致されし嘉永二年より本年滿五十年を經過し今日此祭祀を營む事に至りました 抑教祖の高徳は御歿後僅に五十年間にして井上神社と稱し奉る神位に昇り給ひ又其御功業則ち此禊教は獨立布教の御認可を蒙り教師信徒御同様に此道に仕へ此教を弘むる事誠に難

有ことに存升 然して今の時勢を観察致す時は教祖御在世の時代とは雲泥の違ひにて今の世に教祖の御存命なる時には彼の外人雜居も外教侵入も事どもせず大英斷を以て國教を宣布せられ御國人は更にも言はず外人をも教化成され歸依信從せしめらるゝ事と確信致し升 夫と申すは教祖の大徳の時勢を鑑みらるゝ事明かなれば社會も後れざるの方針を立られまして卒先して國教の基礎を定むるゝ勉められんこと火を見るよりも明なる義と存じ升 彼の天保時代の教祖を島流しに爲たる廢政の時と同日の論にあらざれば今の文明の御世となりての外交上の方針をも取られたとへば衣服飲食等のことも昔しの儘にして在が宜しいとのみは云はれぬは勿論ながら鹿食鹿服に限るにはあるべからず所謂時世々々にして外人等に對しては何に付ても御國威を墮さぬやう専ら彼に勝らんことを勉むべき事であり升 其邊の事は教祖の遺書に徴して明かなる事に致して彼の時代にありてもたゞ鹿食鹿服をのみ致さねば成らぬとは云はれず人としては恩を知らざれば禽獸にも等し恩を知るを以て貴重ある人

と申ものぞと親切に教諭されたり則問答書の中にも たゞ人は天地の御恩を思ひて家の業を勤め仕ふべし とあるにても文明は文明開化は開化に隨ひて道を布き弘められ 神徳皇恩を天下萬民に知らしむる精神は貫徹致す事であり升 是を以て其徳を仰ぎ其功を貴びて此五十年祭をも相營み聊報本反始の信を表する義であり升 禊教々師門中の諸君希く之此末とも教祖の遺訓を心頭に戴き持て御國人の申迄もなく外國人をも感化歸依せしむるやう吾神の道禊の教に勤め仕まつる事を願ひます

六 告奏

五十年祭當日に先たち前日 十一 午前十時より管長代理として課長中教正乾久三郎教
師榎勘十郎土屋源十郎を率ひて梅田なる教祖の御墓所に參向し神饌を供へ告奏式を行ふ則告文は左の如し

告文

掛卷毛貴伎井上正鐵六人乃與都伎乃御前爾管長坂田安治爾代里豆中教正乾久三郎畏美毛
白左久汝命身失給比志興利來經行月日早久毛五十年乎過豆今日爾奈毛成奴故例乃任爾下谷乃
里奈留本津神社爾教子等寄集比豆祭祀仕奉留爾依豆今日大前乎拜奉里告奉其久乎平介久聞食
豆常毛撫給比愛給爾留恩願乃任任吾禊教乎夜乃守日乃守爾護幸爾給閉止畏美畏美毛申須

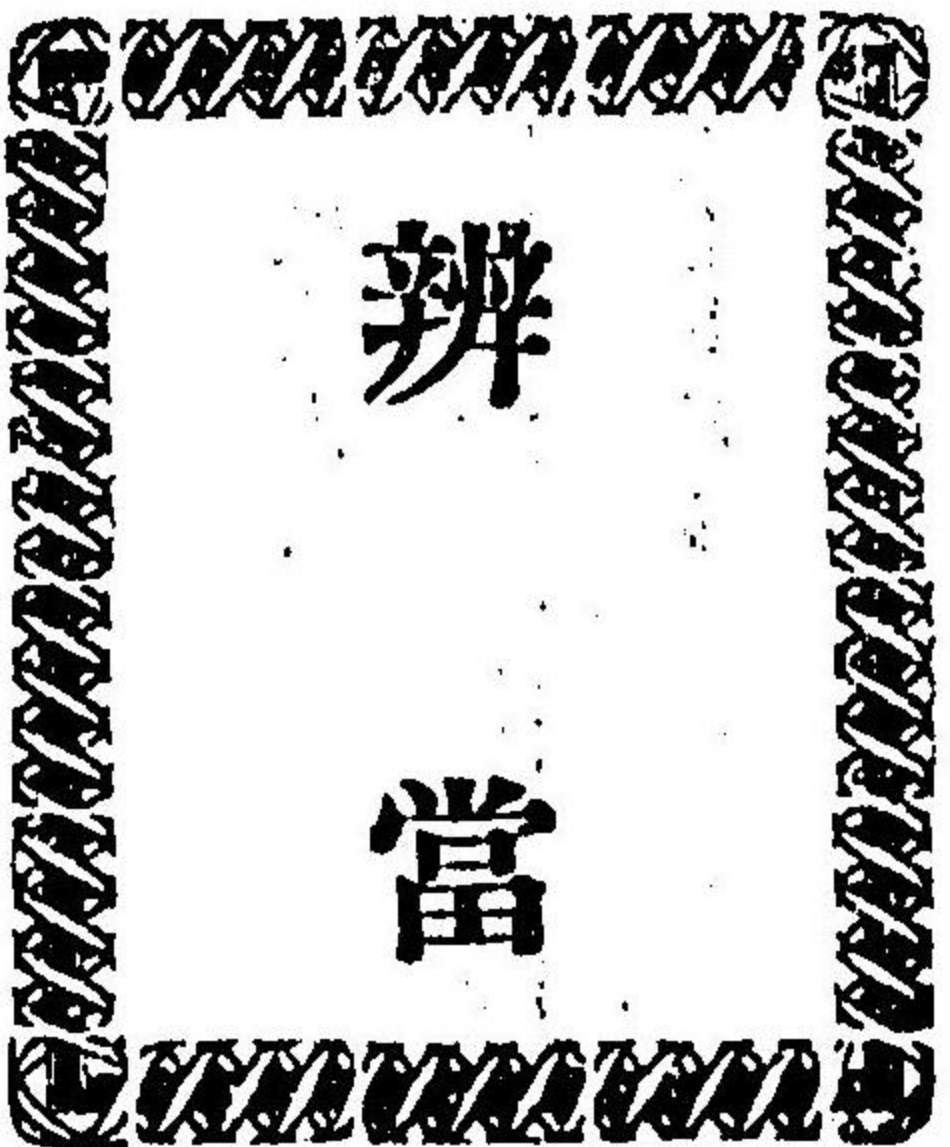
○酒 饌

當日來賓及參詣人へ赤飯辨當を出す其類別左の如し

一 類別

- 一 來賓には赤飯并に二重折詰辨當正宗小壺二本を饗せり
- 一 各分支院の參詣人及東京特別參詣人には赤飯折詰辨當を饗す
- 一 普通一般參詣人には赤飯を出す
- 二 辨當券及酒盃

辨當券は左の如し



盃は左の如し



○警備

一 警官の注意

當日朝來雨天なりしも午后二時頃より快晴せしを以て參詣人夥しく群集し神社境内
の勿論本院内外とも實に立錫の地なく且西町往來の混雜一方ならず若し怪我人等を
出すことありては不相成と警官に於ても大に配慮せられ南北橋内車通行を禁じたれ
ば人夫を出し置通行人の妨害なきやう十分注意すべき旨を指示さる

二 取締人夫

町内齋頭内田榮太郎保木間全細井助右衛門兩人へ境内外取締申付人夫數十人よて絶
えず見廻らしめたり

○奏樂 餘興

一 吉備舞 十二日

高 砂 小笠原弘子

常磐の松 全

富士の峯 小笠原子爵

十三日

小倉山 小笠原弘子

豊芦原 全

松か枝 小笠原子爵

二 神樂

普通二十五座神樂を奏す

三 餘興

本院直轄東京門中有志者の奉納せる餘興番組并に有志者姓名は左の如し
劔舞 神刀館長吟士開祖日比野正吉

朝光源光園

石井正房

偶成篠原國幹

蒼龍

篠原新年

有雨

篠原新八孫

篠原新平

中川まさ子

八才

陣中作上杉謙信

日本橋區馬喰町四丁目二十三番地

霜滿軍營

中川まさ子

殘月

篠原新平

鞭聲

石井正房

飛雨

中川まさ子
篠原新平
石井正房

賴山陽

天草洋賴山陽

本能寺

舟申亭

雲耶山耶

篠原新平
中川まさ子

白虎隊

大輪正秀

踏破

日比野正吉

茶番狂言番組

音曲入かるくち

鏡山奥には 桂川れんしの柵 骨髻玉のり 二人かつ

はれ 両國夕すゝみ おばけの仕返しお富の氣轉 一分茶番鉛倉山寶藏

やぶり 忠臣藏五段目 全七段目 花水橋けんかの仕返し 石屋の彌陀

六權助地藏 骨髻おたれ 備前長舟目利の馬鹿舞 西洋皿廻し 骨髻と

ろゝまき 醫者の名前は朝つけ澤庵 ひろはぬさきから争ふ彌次喜太

物にこる芝居のうつり氣

明治連狂言士

古柳 佐鏡 芝女鼻 酒好 鶴志 鏡の助 遊車 梅鏡

鏡人 歌笑 すゝ女 小芝女 小佐松

手あどり いと子

松の祿 越後獅子 北洲 五郎 京の四季 につほれ

有志者姓君

山本六兵衛 伊東市太郎 小泉吉五郎 北條 寅吉 宮崎三右衛門

村田重太郎 坂田 兼吉 岡本 半兵衛 山川 慶次郎 下村 福三郎
 武者 正之助 谷口 箕三郎 富永 平次郎 鈴木 惣右衛門 富田 榮太郎
 渡會 廣告 加藤 為藏 奥積 太郎吉 櫻井 一新 瀧波 金太郎
 大森 巳之助 古口 忠助 齋藤 徳次郎 石井 善之助 岡野 芳藏
 鈴木 萬藏 味崎 彌助 江川 八左衛門 中村 定次郎 佐久間 定吉
 真中 長四郎 相馬 藤助 石原 安三郎 林 徳次郎 加藤 利三郎
 坂田 愛子 山本 わか 伊東 みな吉 田とよ 無名 氏
 寺田 さき 北條 ひろ 谷口 ゆき 田村 ます 古口 かく
 小林 志げ 新井 かね 福田 こう 伊東 こう 齋藤 どう
 村田 よし 長岡 はな 石渡 さき 小澤 たつ 大前 とみ
 法木 すゑ 下村 つや 岡野 きん 加藤 いな 鈴木 さだ
 福室 この 齋藤 かね 澤田 りゑ 鈴木 はな 和泉 その

乾 まき 米山 かね

○祖靈祭

一 祖靈社祭

翌十三日教祖の父母の命の神靈を始め高弟諸氏并に禰教事務教師の靈を感じる爲め例に依り祖靈社に於て祭典を執行せり

二 鐵安翁十年祭

故教長坂田鐵安翁十年祭相當に付引續き祠前に祭式を行ふ此日は幸に天氣快晴なるを以て參詣人前日にも劣らず群集し一同喜ひあへり則兩所の祝詞ハ左の如し

祖靈祭祝詞

掛卷母 貴俊 安藤 眞鐵 大人 神靈 井出 千代 刀 自 神靈 及 本莊 宗秀 大人 杉山 秀三

主 野澤鐵教主 加藤鐵秀主 三浦采女刀自 村越正久主 坂田正安主 村越守一
 主 伊藤祐像主 吉川鐵彦主 千村正實 館野安義 吉田安孝 澤田安堅 清水安
 幸 吉川伊織 五十嵐鐵則 江幡則國 脇坂安吉 笠原勝清 山崎安信 齋藤安通
 眞壁信幹 酒井安常 白井深七 須川林藏 坂本與八 栗村勝吉 岡本競 高浦
 花 河内常秀 又 武井安秀 赤松則明 小平菅根 曾布川金定 小林信堅 野口
 琴 石堂賢直 邊見恒五郎 黒子正兵衛 小野口村治 諸神靈等乃前爾禊教管長坂
 田安治忍美忍美毛白若久今度教祖乃大人乃命乃五十年乃祭典仕奉里今日波毛汝命等乃祭祀
 乎毛仕奉留止志豆御酒御饌海川山野物種々乃物乎捧奉里拜奉留事乃狀乎平介久安介久聞食豆
 是乃禊教乎彌進米爾進米給爾彌祭衣爾祭志米給爾門中乃男女諸畏伎皇我大朝廷乃大御法乎過
 犯事無久人止在留道爾違波受他國乃異教言爾相混里相口會事無久御國乃御爲爾人乃爲爾名
 乎立功乎顯須倍久勤志美仕奉良志米給爾家爾毛身爾毛枉事在世受夜乃守日乃守爾守幸給爾止畏
 美畏美毛白須

鐵安翁十年祭祭文

天地の神の恵みの貴きを人おも告よ我も忘るなど汝命のうたひ給ひ訓給へし其昔を
 思ひ出戀ひまつりつゝ、搔算ふれば霞立大空翔り神上り給ひしは早くも十年を過て今
 日になも成ぬ然るに汝命の現世に在まゝ間の御業は可美道功績の大人と稱へ奉れる
 御名の義も著く教祖の大人の命の御教の任に禊せる早川水の清き明き真心を以て天
 地の御恵の貴きことを人々に知しめ是の禊教本院を起し給ひ國々所々に分支院を立
 給ひ井上神社をも造仕奉り及禊教獨立の基をも立給ひしに依て已安治を始め教師等
 諸負けあくも此教に仕奉りて在れば今度教祖の大人の命の五十年の祭祀仕奉り及汝
 命の祭祀をも仕奉らむと御前に種々の御饌物を捧奉り教師及親族教子等諸拜奉る事
 の狀を坂田の田而廣らに御饌の種々美らに聞食うつなひ給ひ是の禊教の守神吾家の
 神と常磐に堅磐に鎮まりまして夜の守日の守りに護幸へ恵み佐け給へと眞兒安治畏
 み畏みもまをす

○墓 參

一 梅田墓參

二十日午前九時禊教本院に打揃ひ歩行にて發足し午前梅田お至り神饌を墓前に供へ一同拜禮し正午頃退出す其人名左の如し

- 坂田 安治 加藤 直鐵 野口 安慶 乾 久三郎 吉田 重藏 齋藤 象吉
- 山川 永徳 眞保 精所 武井 周藏 日下部伴六 古口 忠助 四方傳兵衛
- 辻 亦兵衛 吉川長兵衛 榎 勘十郎 高田 藤吉 北條 寅吉 富田榮太郎
- 加藤 爲藏 村田重太郎 岡野 芳藏 大森巳之助 櫻井 一新 渡會 廣吉
- 富永平次郎 奥積太郎吉 鈴木 万藏 鈴木 はる 田中安兵衛 菊地菊次郎
- 長江 要作 前島縫之助

二 慰勞會

五十年祭に付ては職員一同容易ならぬ盡力を以て首尾能事竟たれば御墓參の歸途慰勞會を催すこととし前の人々皆千住町幸手屋へ立寄り酒宴を開き午后四時各歡を盡して散會す

○決算報告

- 一金千六百四拾八圓七拾六錢 奉納高 内金四百五拾圓 愛國銀行 株券ニテ奉納
- 一金千百四拾貳圓廿貳錢九厘 祭典物費金高

差引

金五百六圓五拾參錢壹厘 餘金高禊教本院資本金ニ備フ

右明細書ハ諸証書ト共ニ管長ノ檢閲ヲ經テ本院會計課ニ永遠保存ス

後徳のききき

まらてゐる

安江

ひさしをむくのあはれ
しんたけ

しんたけのあはれ

東京下谷區北稻荷町四十八番地

坂田安治

永治

不見其後也

梅の香気

明治三十二年五月十六日印刷

明治三十二年五月二十日發行

東京下谷區四町二番地平民

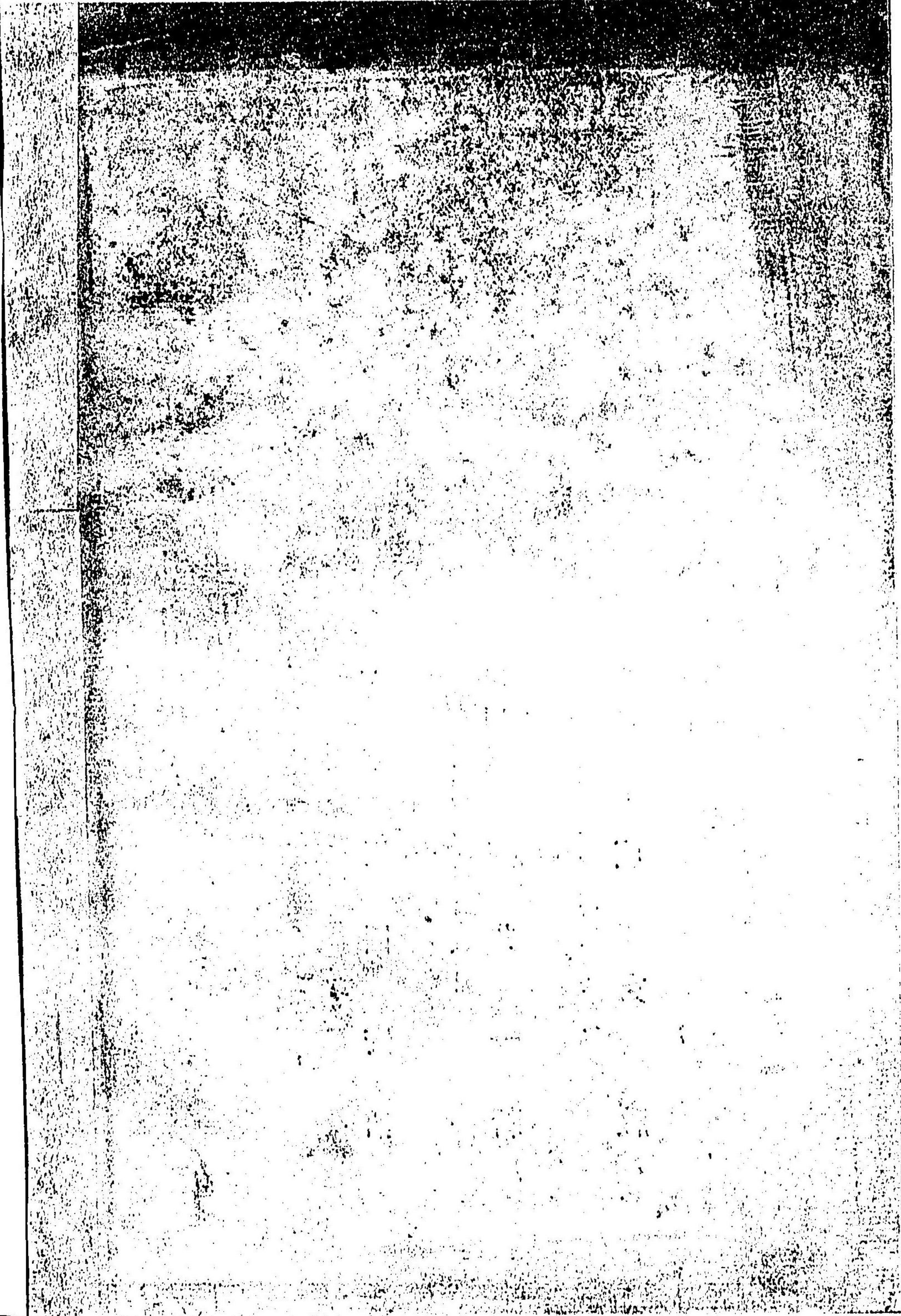
編者 坂田安治

東京下谷區四町三番地士族

印刷者 櫻井一新

東京下谷區北稻荷町四十八番地

印刷所 明文社



50
204

特50
724

教祖五十年祭誌
国立国会図書館

013951-000-2

特50-724

教祖五十年祭誌

坂田 安治/編

M32

ABB-0192

